

令和4年6月3日
資料提供

お問い合わせ先

農業環境・鳥獣害対策室 三宅、播磨 (電話 073-441-2905)

海草振興局農業水産振興課 萩平、向井 (電話 073-441-3384)

県内の小学校で「本県の果樹産業の現状（クビアカツヤカミキリの被害）」をテーマとした出前授業を行います

本県では、県北部のもも、すもも、うめ生産地で特定外来生物クビアカツヤカミキリの被害が拡大する中、被害の防止には、当害虫や被害樹を早期に発見することが重要であることから、県民に広く周知することが必要と考えています。

この度、県内の小学校において、子供たちの地域農業への理解を深める中で、クビアカツヤカミキリについても知ってもらう果樹をテーマとした出前授業を実施します。

「本県の果樹産業の現状（クビアカツヤカミキリの被害）」をテーマとした出前授業

【実施する小学校】

小学校		学年	日時
和歌山市立	浜宮小学校	4年	6月6日（月） 13:15～14:50
和歌山市立	貴志小学校	4年	7月1日（金） 13:50～14:30、14:30～15:20

※浜宮小学校のみが取材可能です。取材については、事前に上記の「お問い合わせ先」へご連絡ください。

<特定外来生物クビアカツヤカミキリについて>

県内では平成29年7月にかつらぎ町で初めて雄成虫1頭が発見され、令和元年11月にかつらぎ町のもも園で被害を初めて確認。その後、県北部地域のもも、すもも、うめ園において被害が拡大している。成虫は、主に6月～8月に発生し、産卵数が極めて多く繁殖力が強い。幼虫は春から秋にバラ科の樹木を食害することで、樹液を含む麵状やミンチ状の固めのフラス（木くずと虫糞の混合物）を排出。また、成長した幼虫が木質部へ蛹室をつくる際、樹液を含まないサラサラのフラスが排出され株元への堆積がみられる。

